

学校経営計画

1 学校教育目標（校訓）

自主 独立 誠実 友情 健康 活力

2 目指す生徒（人間）像（学校教育目標を具現化した生徒の具体的姿）

- ＜自主・独立＞ 自ら学び、正しく判断する生徒（自主独立の精神に満ちた人間）
- 1, 自分の良さを自覚し、他人に迷惑をかけず、責任をとれる生徒
 - 2, 合意形成を図り、強い意志で実行できる生徒
 - 3, 進取の気質と向上心を持ち、夢に向かい根気強く努力できる生徒
- ＜誠実・友情＞ 思いやりがあり、互いに助け合う生徒（誠実で友情の厚い人間）
- 4, 規律を重んじ、約束を守れる生徒
 - 5, 仲間と力を合わせ、学習や行事に取り組む生徒
 - 6, 礼節を大切に、他人に対し思いやりのある言動ができる生徒
- ＜健康・活力＞ 心身共に健康で、逞しく生きる生徒（健康で活力ある人間）
- 7, 自分で自分の健康と安全を守れる生徒
 - 8, 規則正しい生活と体力づくりができる生徒
 - 9, 笑顔で楽しく、学習や部活動に意欲を持って取り組む生徒

3 目指す学校像（目指す生徒像を支える教育環境としての学校像）

通いたい学校 通わせたい学校 勤めたい学校

- ・生徒が安心して良い習慣を身に付け、楽しく学び、自分の成長を感じ、通いたいと思える学校
- ・地域の小学生が中学生の活き活きとした姿に憧れ、自分も通いたいと思える学校
- ・保護者、家族が安心して預けられ、子どもの進路実現を託せ、通わせたいと思える学校
- ・地域の小学生を持つ保護者が子どもを、地域の高齢者が孫を、通わせたいと思える学校
- ・本校に勤める職員が、同僚と共に楽しくやりがいを感じ、勤めたいと思える学校
- ・近隣の学校教職員や地域住民が職員として勤めてみたいと思える学校

4 あるべき教師像（目指す生徒像具現化のため、備えるべき教師としての資質・能力・心構え・態様）

- ＜修養＞ 分かりやすい授業をめざし、研究と修養に励み、臨機応変に対応できる教師
- ＜愛情＞ 同じ目線で寄り添い、向き合い、変化を感じ取り、生徒からも学べる教師
- ＜理想＞ 豊かな人間性と共に、高い理想と使命感をもち、生徒を導く教師
- ＜共同＞ 地域を理解し、チームで生徒、保護者の願いを形にできる教職員集団

5 学校経営の基本方針

本校の教育は日本国憲法、教育基本法等の精神を踏まえ、「生きる力」を育むために、国、県や市の教育方針に従い、地域の実情、生徒の実態及び発達段階や特性を十分に踏まえながら、学校の教育目標具現化を図りながら、心身共に「自立」した生徒の育成を目指す。

6 経営方針

生徒・保護者・教職員の相互理解に努め、地域からも信頼される学校経営

2022 キーワード 自己認識からの自己選択

「人生は選択の連続である」(シェークスピア)

※ 自分自身を客観的に捉える『自己認識(メタ認知)』を大切に『自己選択』を促し、生徒自ら実行する仕組みを整えることにより、学びが深まり、『自己肯定』とともに生き生きと主体的に活動する。

7 本年度の重点取組

(1) カリキュラム・マネジメントの視点

- 1 安心して生活できる集団育成と生徒自治活動の充実(学級づくり、学年づくり、生徒会活動)
- 2 非認知能力を育成する見通しと振り返りの習慣づくり(フォーサイト、生徒用連絡ボードの更なる活用)
- 3 GIGAスクール端末を活かした指導・蓄積・評価(指導要領全面实施による適切な指導計画、指導・蓄積・評価)
- 4 本物、実物、具体物に触れさせるカリキュラム(教材七分、腕三分、ICTの有効活用)
- 5 主体性を育む清掃と校舎の磨き上げ
- 6 地域・学校の歴史と伝統を活かす地域貢献活動の推進
- 7 語彙力、読解力、表現力向上の取組(図書館活用、新聞活用、ICTによる発表場面を生かす取組)
- 8 長期見通しによる総合と連動したキャリア教育の充実

(2) 組織マネジメントの視点

- 9 改善検討会と安全衛生委員会の有効活用(指導改善、働き方改革)
- 10 ICTによるデータ蓄積と活用(データの共有化促進)
- 11 地域連携を踏まえた持続可能な部活環境の構築(「2年後の部活の在り方を考える会」の継続開催とビジョンの共有)

(3) リスクマネジメントの視点

- 12 保護者、地域との信頼を深める学校広報と連絡網の充実(位置付けと発行計画)
- 13 北上川氾濫等、災害時を想定した避難訓練と情報発信(SDGsの視点も参考に)
- 14 情報モラル学習と情報端末のフィルタリングの周知徹底
- 15 感染症予防の徹底と緊急時の想定と迅速な対応

8 学校運営の基本

(1) 「ソウ・レン・ハウ」の徹底

起こった時の初期対応は勿論、事が起こる前に、予め予想し、想定し準備する。

「ハウ・レン・ソウ」ではなく「相・連・報」→「まずは相談・互いに連絡・しっかり報告」
そして記録を残す。

(2) 目的を常に意識し、ビジョンを共有

それは、何のために、誰のために行うのか常に意識して業務にあたる。目的があって目標が定まる。目標とは「期限を定めた数値目標」である。方向性の共有、現状の共有、手段の共有、結果の共有が、目に見える成果、つまり生徒の変容につながる。

(3) 情報の共有化

職員間、職員と保護者間、職員と生徒間、学校と地域間の情報共有、そして適時適切な情報発信、情報の欠如が不満、不安、不信を招く。逆に確実な情報共有が参画意識と組織力（チーム意識）を高める。→安心・安全の確保、成長そして信頼へ

(4) 相手の立場で

まずは生徒、保護者の立場で。さらに家族、地域の方々の立場で。互いに同僚の立場で考える事も忘れずに。→相互理解へ

※ 指導は ①事実に基づいて ②納得させてから ③保護者になったつもりで連絡

(5) プロの意識で

生徒本人の能力のせいにしない。親のせいにしない。家庭環境のせいにしない。

・「遺伝や家庭の資源など、子ども自身にはどうしようもない問題を解決できるポテンシャルを持つのは『教員』である。」

・「『できるわけがない』と思えば脳はその優秀なメカニズムを動員して、『できない』理由を考え始める

・コロナ禍の変化に柔軟に対応する・・・様々なことに『挑戦』というよりは、『行動実験』という気持ちでトライ＆エラー。エラーは即修正すれば、いずれ結果になる。

9 本年度の「学校経営計画の全体」と「グランドデザイン」及び「まなびフェスト」

【別紙参照】

10 チーム前中の共通認識

(1) 共通目標

「明るく、楽しく、風通しのよい職場環境づくり」への積極的な参画

そのためには、しなやかで、たくましい教職員であることを心がける

しなやかさとは・・・『さまざまな状況に臨機応変に対応する柔軟性と、相手に寄り添う共感性』

たくましさとは・・・『錯綜する情報を整理し意思決定する判断力と、事において迅速に動く行動力』

(2) 仕事の原則 ～「人は立場で仕事をする」～

- ・ シンプル、スピード、センス、コミュニケーションを生かす
- ・ 1人で悩まず、抱え込まず、組織を生かす
- ・ 仕事は「ゆとり」をもって進める 「ゆとりとは見通しがあること」

(3) その他

- ・ コンプライアンス = 基本姿勢は教育公務員としての使命感と責任感
- ・ 信頼関係 = 教職員・生徒・保護者・地域との相互理解
- ・ 学校全員で取り組む = 健康管理・情報管理・金銭管理・時間管理・文書管理